16:23

はじまりとおわりのはざまで
わたしたちは時を歩む

透き通った優しい風が髪の隙間を通りすぎ
水平線から海を渡ってながら
世界の影を取り払いながら
そこら中を透明に満たしていく

記憶の底の重たい影もに
こぼれ落ちた溜息と共に
空に向かって溶けていった

三日月の背中に意識を巡らせ
小石の歴史に思いを馳せる
ポケットの中の小枝さえ
光に透かすと透明だった

気づけば金星が瞬いている
空はオーロラの欠片を身に纏い
これから続く夜のはじまりへと
足音を立てずに向かうのだ

世界に影が満ちる時
ひとすじ流れた星の光を
そっと両手ですくいとり
再び地球に舞い戻ろう

はじまりとおわりのはざまで
わたしたちは時を歩む
誰かにこの光を手渡すために